

ビンゼレックス®による 化膿性汗腺炎治療を受けられる方へ

監修：葉山 惟大 先生

日本大学医学部 皮膚科学分野 准教授



製造販売元 **ユーシービージャパン株式会社**

東京都新宿区西新宿8丁目17番1号

文献請求先及び **ユーシービーケアーズ コンタクトセンター**

問い合わせ先 TEL: 0120-093-189

受付時間 9:00~17:30(土日・祝日・会社休日を除く)

2024年9月作成
BKZ-24002

もくじ

- はじめに 3
- 化膿性汗腺炎の症状 4
- ビンゼレックス®の特徴 5
- ビンゼレックス®は注射薬 6
- ビンゼレックス®を注射する部位 7
- ビンゼレックス®の投与スケジュール 8
- ビンゼレックス®による治療を受けるにあたって 10
- 日常生活の注意点 13

はじめに

あなたと一緒に化膿性汗腺炎の治療を進めていくために



化膿性汗腺炎は、毛穴が何らかの要因で詰まってしまい、炎症を引き起こすことが原因であると考えられています。

これまで日本では、あまり知られていない疾患で、**感染症と誤解**されていることが多いですが、**実際は感染症ではなく炎症を伴う慢性の皮膚の疾患**で、一度発症すると再発や悪化を繰り返すことが特徴の1つです。

症状が悪化すると、炎症部分に痛みや悪臭を伴う膿があらわれます。痛みによって仕事に支障を来したり、においが気になり外出に消極的になったりするなど、今までと同じように行動ができにくくなるといった身体的な影響や、気分が落ち込むなどの精神的な影響など、生活のあらゆる面に影響が及ぶこともあります。そのため**早期に適切な治療を行うことがとても大切です。**

適切な診断がなされたことで、病気にあった治療を行うことができます。その治療薬の1つが**ビンゼレックス®**です。

治療を行うにあたって疑問や不安に思うことは、何でも相談してください。適切な治療や心のケアを行い、より良い生活を送れるよう、一緒に前向きに治療を進めていきましょう。

化膿性汗腺炎の症状

化膿性汗腺炎の症状とは

化膿性汗腺炎は、毛穴が何らかの要因で詰まってしまい、炎症を引き起こすことが原因であると考えられています。化膿性汗腺炎は処置をしないまましていると、皮膚の下に膿がたまっていきます。さらに進行すると、膿がたまった毛を包む袋(毛包)がやぶれ、痛みや悪臭を生じながら、周りの組織が反応しさらに炎症が起こり、皮膚の下で迷路のようなトンネル(瘻孔)ができていきます。症状が悪化するほど、慢性化や傷跡が残る可能性があります。

正常な状態

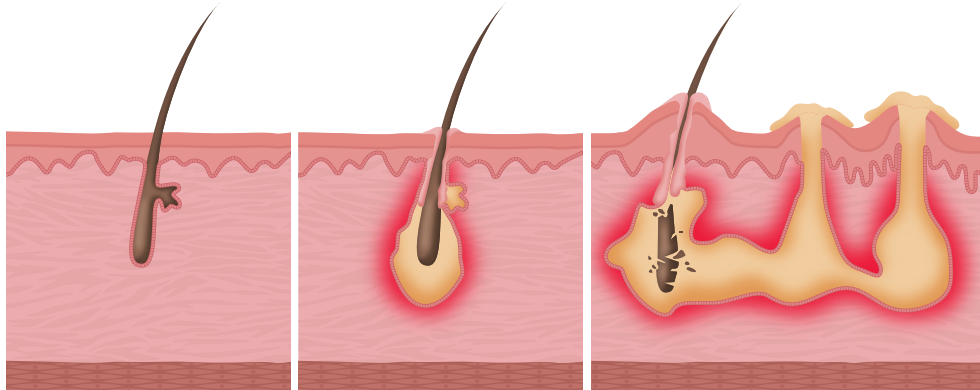
(イメージ図)

毛包が閉塞し、
炎症している状態

(イメージ図)

症状が悪化し、膿がたまった毛包がやぶれ、
瘻孔ができていく状態

(イメージ図)



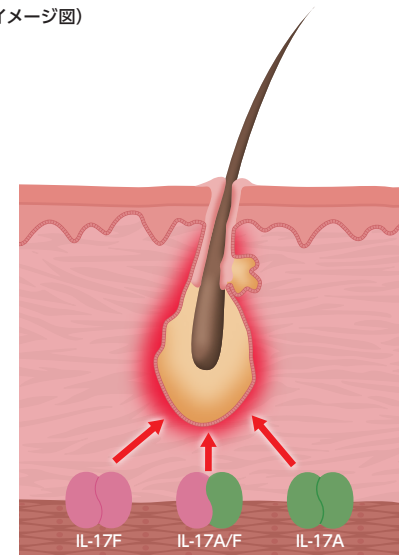
ビンゼレックス®の特徴

ビンゼレックス®とは

ビンゼレックス®は、化膿性汗腺炎の原因となるサイトカイン*の一種であるIL-17AおよびIL-17Fという物質をターゲットにした薬剤で、これらのサイトカインに結合して働きを抑えることで皮膚の炎症を防ぎ、化膿性汗腺炎の症状を改善します¹⁾。

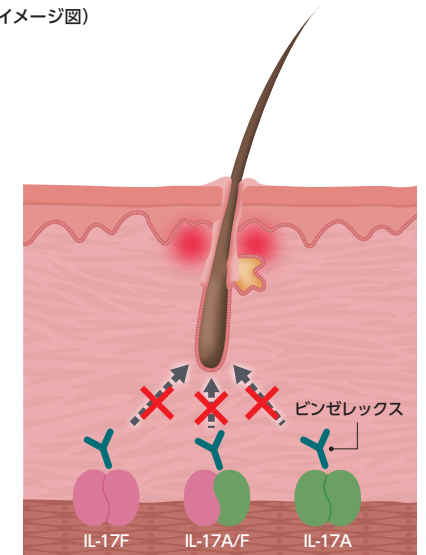
炎症性サイトカインIL-17AとIL-17Fが
過剰に働いて炎症が起こっている状態

(イメージ図)



ビンゼレックス®の作用により
皮膚の炎症を防ぐことで、
化膿性汗腺炎の症状の改善が期待される

(イメージ図)



※サイトカインとは、本来、免疫にかかわる細胞が異物から体を防御するため、体内に放出される物質のことです。免疫の異常によりサイトカインが過剰につくられると、化膿性汗腺炎などの様々な病気が生じると考えられます。IL-17AおよびIL-17Fが増えると、皮膚の炎症を起こし、化膿性汗腺炎の発症や症状の悪化につながると考えられます²⁾。

1) ビンゼレックス添付文書2024年9月改訂(第5版).

2) Navarro-Compán V, et al.: Front Immunol. 14:1191782, 2023.
利益相反:本論文の研究資金はUCB Pharmaから提供を受けたものである。

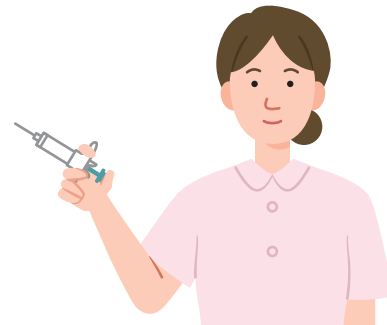
ビンゼレックス®は注射薬

ビンゼレックス®は注射薬です。自分で注射する方法*のほか、医療機関で注射する方法もあります。

自己注射*



医療機関で注射



自己注射を行う方は、こちらの冊子をご活用ください。



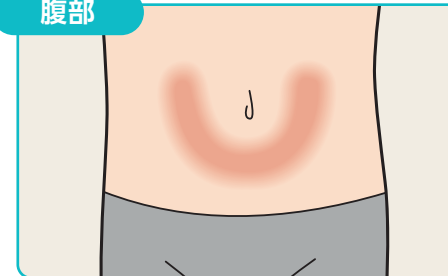
*自己注射を行えるかどうかは医師の判断によります。また、自己注射について理解し、確実に注射を行えるように、医療従事者による教育訓練を受けることが必要です。

ビンゼレックス®を注射する部位

推奨される注射部位は、腹部、大腿部、又は上腕部です。

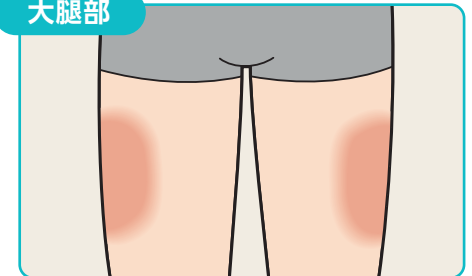
自己注射する場合は上腕部ではなく、腹部か大腿部に皮下注射します。本人以外が注射する場合は上腕部でもかまいません。

腹部

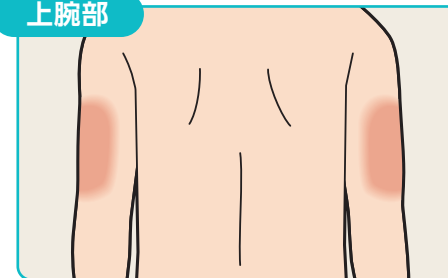


へその周囲(約5cm)は避けてください。

大腿部



上腕部



本人以外が注射する場合
※本人以外が注射する場合でも、
注射方法の指導を必ず受けて
ください。

注意点

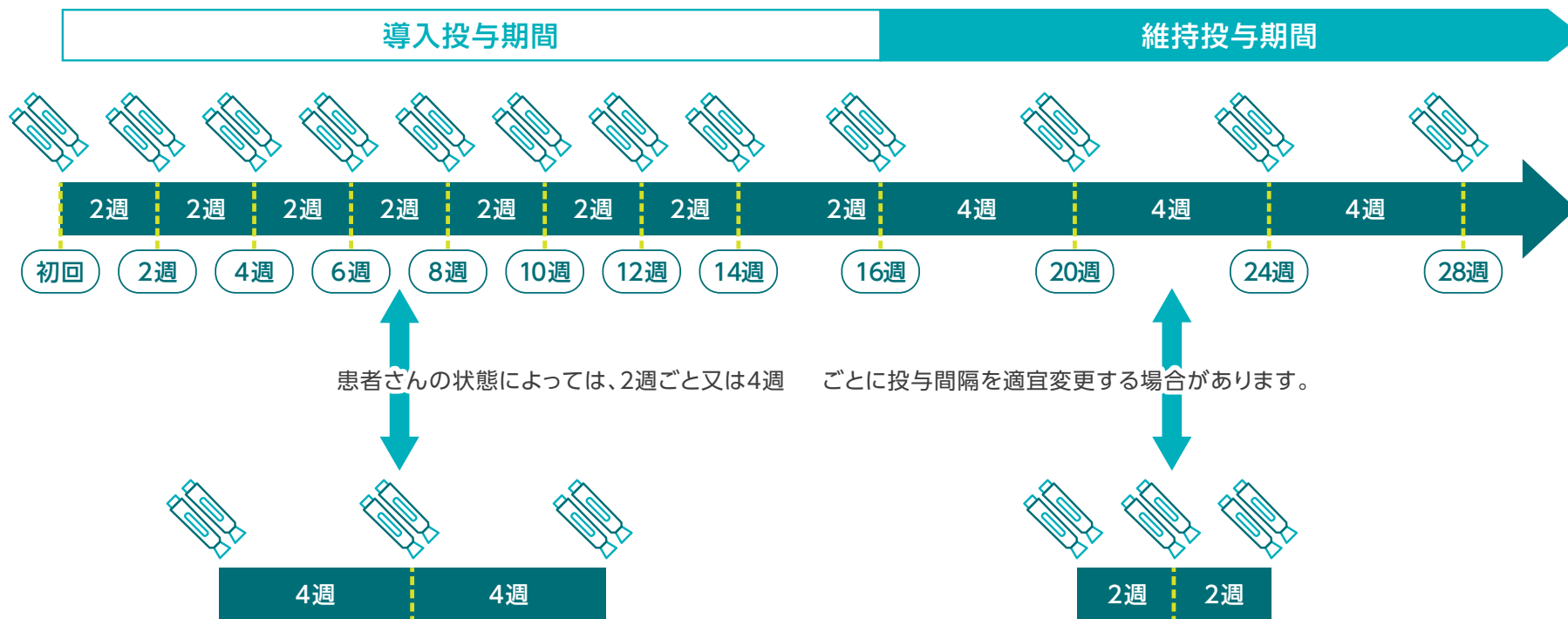
- 1回の投与で2本打つ場合には、1本目と2本目の注射箇所は少なくとも3cm離してください。
- 前回とは違う箇所に注射してください。
- 腹部に注射する際はへその周り5cm以内は避けてください。
- 皮膚症状(赤み、発疹、フケのようにポロポロと剥がれ落ちる状態、皮膚が少し盛り上がっている、硬くなっているなど)やケガ、痛みがある部位は避けてください。
- アルコール綿にかぶれる場合は、主治医や看護師、薬剤師にお伝えください。


ビンゼレックス®の 投与スケジュール

通常、1回320mg(160mg製剤2本)を初回から16週までは2週間隔で皮下注射し、16週以降は4週間隔で皮下注射します。

*患者さんの状態によっては、2週ごと又は4週ごとに投与間隔を適宜変更する場合があります。

●通常



 : 160mg オートインジェクター又は160mg シリンジ×2

ビンゼレックス®による治療を受けるにあたって

投与前の確認事項

以下の病気にかかったことのある方は、ビンゼレックス®の投与前に必ず主治医にお申し出ください。

結核

(結核を活動化させるおそれがあります)

炎症性腸疾患(クローン病や潰瘍性大腸炎を含む)

(炎症性腸疾患が悪化するおそれがあります)

以下に該当する方も主治医にお申し出ください。

- 現在感染症にかかっている、もしくは感染症が疑われる方
(感染症が悪化するおそれがあります)
- 妊娠又は妊娠している可能性のある方
(治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみビンゼレックス®による治療が可能です)
- 授乳中の方
(治療上の有益性および母乳栄養の有益性を考慮して、授乳の継続又は中止が検討されます)
- これまでに生物学的製剤の投与を受けたことのある方
(可能であれば使用したことのある薬剤名をお伝えください)

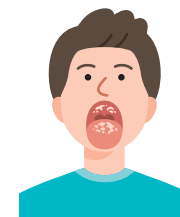
ビンゼレックス®による治療を受けるにあたって

ビンゼレックス®の主な副作用

国内又は海外で確認されているビンゼレックス®の主な副作用には以下のようなものがあります。

口腔カンジダ症

免疫力の低下や口腔内の状態が悪いことで、常在している真菌であるカンジダが異常に増えることで起こります。口腔内や舌の痛み、白い苔のようなものが付着したり、味覚異常などの症状がみられます。



上気道感染・鼻咽頭炎

多くはウイルスが鼻咽頭から咽頭粘膜に付着することで感染が起こります。鼻水、くしゃみ、鼻づまり、のどの痛みなどの症状がみられます。



過敏症反応

頻度は低いものの、薬剤に対するアレルギー反応としてアナフィラキシー(血圧低下、呼吸困難など)、アトピー性皮膚炎などを起こす可能性があります。



これらの症状に気づいたら、必ず主治医にお申し出ください

ビンゼレックス®による治療を受けるにあたって

ビンゼレックス®の投与中に注意すること

注射当日

- 注射した部位を揉まず、刺激しないように注意してください。

日常生活

- 感染症を防ぐため、日頃からうがいや手洗いをし、規則正しい生活を心がけてください。
- 予防接種を受ける場合は、事前に必ず主治医にご相談ください。
- 妊娠・授乳を希望する場合は、すぐに主治医にご相談ください。



副作用かな?と思ったら

11ページで紹介した主な副作用のほか、以下のような症状があらわれた場合、速やかに主治医、看護師、薬剤師などへ相談してください。

- 口の中の痛み、舌の痛み、味覚異常
- 発熱、咳、鼻水、のどの痛み、頭痛、悪寒など風邪のような症状の継続
- 皮膚に今までとは違う発疹(じんましんなど)、かゆみ
- 息苦しさ
- 冷や汗、動悸
- 体のだるさ
- 腹痛、下痢、粘液や血が混ざった便
- 体重減少、食欲減退
- 肛門の違和感や痛み、膿

日常生活の注意点

化膿性汗腺炎の悪化を防ぐために気をつけること

生活習慣

- 喫煙は病状を悪化させる要因と考えられているため、禁煙にチャレンジしましょう。禁煙によりその他の病気も予防できるので、禁煙への取り組みをお勧めします。ご自身での取り組みが困難な場合は禁煙外来に相談しましょう。
- 過食や栄養不足、睡眠不足は炎症を悪化させる原因になります。バランスの良い食事や睡眠を十分にとり、免疫力を高めることを心がけましょう。
- 化膿性汗腺炎は肥満と関連していると考えられているため、食生活や運動の習慣を見直し、太りにくい体づくりを心がけましょう。

衛生

- シャワーなどで清潔に保つことを心がけましょう。ボディソープなどは低刺激性のものなどを使用し、手の平を使って洗うことで刺激を避けられます。
- 睡眠中に汗をかくことも多いので、寝具などを清潔に保ちましょう。冷暖房を調節することも効果的です。

衣類

- やわらかく刺激の少ない素材や、通気性や吸湿性の良い素材を選びましょう。
- 汗をかいたままの衣服は着用せず、早めに着替えることで刺激を避けられます。

その他

- 運動は、化膿性汗腺炎の症状が強いときは無理せず、過度な運動は避けましょう。汗を放置すると、皮膚の刺激や細菌の増殖によって症状を悪化させることがあるため、シャワーなどで清潔な状態を保ちましょう。
- ムダ毛の処理をする場合は、肌への刺激が強いカミソリは使用を控え、電気シェーバーやハサミでカットするなど気をつけるようにしましょう。

MEMO

A large white rounded rectangle containing 18 horizontal dotted lines for writing, set against a light blue background.